

製品名: PBF ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab15803**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	20kDa

抗原情報

遺伝子名	PTTG1IP
別名	PTTG1IP; C21orf1; C21orf3; Pituitary tumor-transforming gene 1 protein-interacting protein; Pituitary tumor-transforming gene protein-binding factor; PBF; PTTG-binding factor
遺伝子 ID	754.0
SwissProt ID	P53801
免疫原	抗血清はヒト PTTG 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 116-165

背景

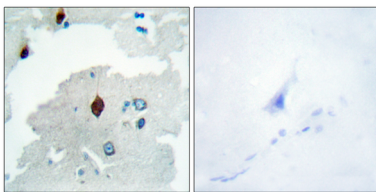
この遺伝子は、下垂体腫瘍形成タンパク質 1 (PTTG1) に結合し、PTTG1 の核への移行を促進する、1 回膜貫通型 I 型膜タンパク質を

コードしています。このタンパク質と PTTG1 の共発現は、塩基性線維芽細胞増殖因子 (bFGF) の転写活性化を誘導します。この遺伝子には、選択的スプライシングを受けた転写バリエーションが見つかっています。[RefSeq 提供、2013 年 11 月]、機能: PTTG1 の核移行を促進する可能性があります。、誘導: 転写因子 RUNX2 による。、細胞内局在: PubMed:10781616 によると、細胞質と核に存在します。、サブユニット: PTTG1 と相互作用します。、組織特異性: 普遍的です。、

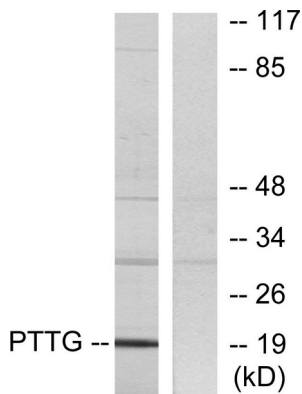
研究分野

細胞周期

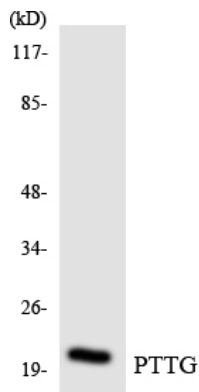
画像データ



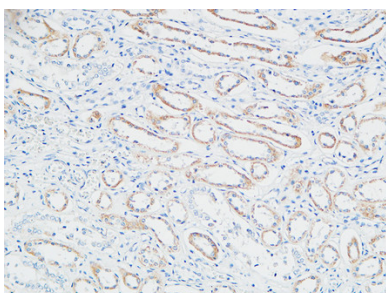
PTTG 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



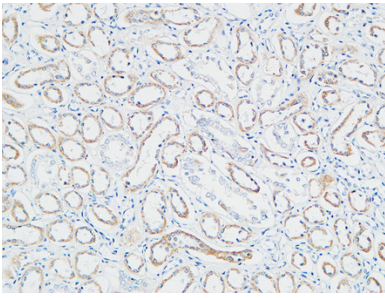
PTTG 抗体を用いた RAW264.7 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



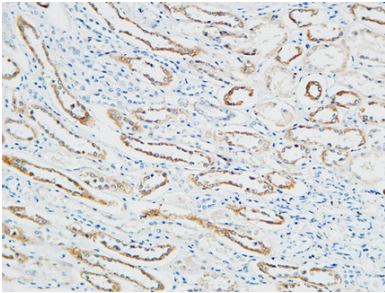
PTTG 抗体を使用した HeLa 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



パラフィン包埋ヒト右腎臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈した (4°、一晚)。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30 分)。



パラフィン包埋ヒト右腎臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈した (4°、一晚)。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30 分)。



パラフィン包埋ヒト右腎臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈した (4°、一晚)。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30 分)。